

2023 年 11 月 13 日

2023 年 10 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は学参テキストに動きがみられたが、大口物件が減少しており前年をやや下回った。

巻取は学参関連に加え、生損保、金融関連、チラシにも動きがあり、前年並みに推移した。

（前年比 平判 96.3% 巻取 99.2%）

再生紙平判は入札案件の受注増加により前年を上回った。

再生紙巻取は定期案件以外に目立った動きがみられず、前年を大幅に下回った。

（前年比 再生上質平判 119.5% 再生上質巻取 70.4% 再生上質計 90.4%）

（前年比 印刷用紙 A 全体 96.8%）

（2019 年比 印刷用紙 A 計 77.6%）

<A2 コート>

平判はインバウンド需要の拡大に伴い、旅行パンフや飲食店、観光地チラシの需要は安定的に推移している。一方、カタログ、チラシ、雑誌で動きが鈍く、グロス、マット共に前年を下回った。

巻取は通販、食品デリバリーで一部動きがみられたが、雑誌で落ち込みが続いている。マットは前年を上回ったが、グロスは前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 92.5% 巻取 93.5% 全体 92.7%）

（2019 年比 A2 コート計 71.8%）

<A3 コート>

食品関連、デリバリー、ドラッグストアの案件で一部動きが見られたものの、教育や生損保、不動産チラシの落ち込みが大きく、目立ったスポットも見られなかったため平判、巻取共に前年を下回った。

（前年比 平判 96.2% 巻取 63.1% 全体 70.8%）

（2019 年比 A3 コート計 59.1%）

<ノーカーボン紙>

平判はインボイス関連の動きはあるものの、コロナワクチン予診票の動きはない。巻取は生損保の窓口販売帳票の Web 化で減少している。昨年価格修正前の仮需の反動もあり、巻・平共に前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 77.6% 巻取 78.9%）

<上質フォーム>

株主総会関連の動きは出てきたが数量は減少傾向。前年マイナンバー普及促進案件や電力会社の料金改定案内などがあったが今期は目立ったスポットもなく、前年を大幅に下回った。

(前年比 78.8%)

<包装用紙>

特殊両更は全般的な需要減に伴い役所向け、一般企業向け封筒の全てにおいて動きが見られず前年を大幅に下回った。

(前年比 57.0%)

軽包装は印刷会社、製本会社向け雑包装用途の動きも悪く、前年を下回った。

(前年比 85.1%)

片艶晒は在庫不足からの片艶晒離れが続いており、前年を大きく下回った。

(前年比 67.1%)

両更晒は来年から始まる電子帳簿保存法への移行準備による封筒用途の減少、さらに全般的な需要減の為、前年を大きく下回った。

(前年比 80.7%)

純白ロールは包装紙関連、特にスーパーマーケットの包装紙に動きが見られ、前年を上回った。

(前年比 105.3%)

包装紙全体でも 86.1%と前年を大きく下回った。

<板紙>

コートボールは物価高の影響で食品、菓子の動きが悪いものの土産や医薬品関連は堅調で前年並みであった。

高板は出版、POP が依然として低調。トレーディングカードは一巡したものの人気は衰えず堅調であった。

特板はインバウンドの影響で化粧品関連が好調であった。

チップボールはエンタメ音響関係が好調。バレンタインは例年に比べ動きが遅れている模様。出版もヒット作が出たものの全体的には低調であった。

昨年の二次値上げによる仮需の影響は若干であり、全体的に前年並みであった。

(前年比 101.5%)